

包括だより 第32号

「認知症の人と家族の会 広島県支部 出前定例講演会」

過日、2月12日にマルシンクリスタルアージュ大ホールにおいて、広島市北部認知症疾患医療センター長 山下拓史様の講演会、認知症の人と家族の会の会員・三次市家族の会の方による体験発表会と相談会が開催されました。今回は、その内容や参加された方のご意見等を掲載しております。「認知症とともにいきいきと暮らす地域」を目指して、今後も当事者の方や関係者とともに活動の支援の一助になればと考えております。

～広島市北部医療センター 山下拓史医師～ 「知っておきたい認知症の治療とケア」



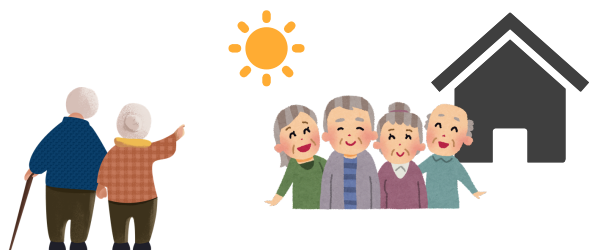
認知症とは大脳の神経細胞が変性し減少する病気。誰もがなりうる脳の病気です。主な要因は様々にありますが、近年では難聴、高LDLコレステロール、社会的孤立等の割合が増加傾向にあります。認知症の種類は、アルツハイマー型、血管性、レビー小体型等様々な種類があり、症状也多岐にわたります。

2023年12月レカネマブ（レケンビ）という新薬が発売。MCI（軽度認知障害）、軽度アルツハイマー型認知症の方が対象で、治療の適応は検査結果で医師が判断します。早期発見・治療が重要です。気になる方はかかりつけ医に相談してみてください。

当事者だけでなく家族の方も不安を抱えておられます。心配事があれば、かかりつけ医や地域包括支援センター、家族の会等に相談してみてください。

～家族の会の方～「つどいがあってよかった！！」

夫が認知症になり、これからの不安が募っていた所、つどいがある事を知りました。つどいは生きた情報があり、しんどさを受け止めてくれる場所です。病気をなくす場ではないですが、共有する場、仲間ができる場です。「つどいがあるとよかった！！自分のところが軽くなりました。」と話され、ひしひしと思いが伝わってきました。



～三次市認知症の人と家族の会の方～ 「本人や家族の「つどい」開催紹介」



「三次市家族の会」の紹介。

会員の語らいとリフレッシュを目的に偶数月に定例会を開催し、お花見座談会、おしゃべり、絵手紙、クリスマス会、お口の健康等行っています。会員は現在37名です。普及活動として11月健康福祉まつり、ショッピングセンター等でリーフレットの配布、映画上映会も行っています。

「陽だまりの会北部」の紹介。

若年性認知症の人、介護者、専門家、サポーターの集いを毎月第3土曜日に開催しています。体操やゲーム、絵手紙、餃子パーティー等をみんなで企画し、楽しく参加をされています。

皆様の声

- 認知症について基本から聞き再確認できた。また新薬など新しい治療なども興味深かった。
- 認知症になっても抱え込まず相談していくことが大事。本人、家族の思いに寄り添って、その人らしい生活ができるよう支援していきたい。
- 同じ病気同志（当事者）で何でも話を聞ける場、話し合える場があれば良い。
- 介護をしている人と、いい声掛けや介護の方法を聞ける場があったら参加したい。
- 遠慮なく思いが話せる場、相手の話を遮らず傾聴できる雰囲気、手芸などに偏りがちだが男性も参加しやすい内容、参加者が中心となって企画できること。

今後について

今回の講演会・相談会は、家族の会の皆様を中心に初めて開催され、多くの方にご参加いただきました。また、アンケートでは「認知症の本人や家族が集い、気軽に話ができる場があったらよい」と回答された方が多数おられ、交流や相談ができる場への関心の高さもうかがえました。今後は、主体となる家族の会の活動を大切にしながら、地域包括支援センターとして後方支援を行い、様々な関係機関とも連携しながら、認知症の方やご家族が安心して交流や相談ができる場づくりの協議を進めていきたいと考えています。

認知症に関する心配ごとやお困りごとがありましたら、一人で抱え込まず、どうぞお気軽に地域包括支援センターへご相談ください。